

予 算 要 求 資 料

令和 6 年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：水産業費 目：水産業振興費

事 業 名 外来魚生息拡大防止緊急対策事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部里川振興課水産振興室水産係

電話番号：058-272-1111(内4216)

E-mail：c11428@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 114,745 千円 (前年度予算額：0 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	114,745	0	0	0	0	0	0	0	114,745
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

令和 5 年 5 月に美濃市内の長良川でコクチバスの生息が初確認された。コクチバスは外来生物法で特定外来生物に指定されている肉食魚であり、低水温環境へ適応できると、高い遊泳力をもつことから河川において繁殖し、アユ等の水産資源に対する食害が発生する恐れがある。また、河川で一度定着・拡大してしまうと完全な駆除が極めて困難である。

そこで、岐阜県コクチバス駆除総合対策に基づいて、電気ショッカーボートを主体としたコクチバス駆除体制を構築する。

(2) 事業内容

○電気ショッカーボート等の運用による駆除体制の構築 (113,233千円)

○会計年度任用職員 (補助職員・分析補助) (1,512千円)

(3) 県負担・補助率の考え方

長良川においてコクチバスが初確認され、「清流の国ぎふ」づくり、そして世界農業遺産「清流長良川の鮎」の認定を脅かす存在であり、長良川流域、さらに全県下に広がる恐れがあることから、県が早急に対応する必要がある。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報酬	1,018	会計年度任用職員（補助職員・分析補助）
職員手当	437	会計年度任用職員（補助職員・分析補助）
共済費	5	会計年度任用職員（補助職員・分析補助）
旅費	3,678	業務旅費(3,626)、費用弁償(52)
需用費	4,403	消耗品費(3,838)、燃料費(43)、印刷製本費(322)、修繕料(200)
役務費	388	役務費(306)、保険料(82)
委託料	73,546	電気ショッカーボート等運用委託
使用料及び賃借料	23	高速道路使用料
備品購入費	31,237	電気ショッカーボート（債務負担行為）、背負い式電気ショッカー（債務負担行為）、水中ポンプ等
公課費	10	重量税等（債務負担行為）
合計	114,745	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

○ぎふ農業・農村基本計画（R3～R7）第7章 主要品目別施策（19）淡水魚
○岐阜県水産業振興計画（R5～R9）2（2）活力ある（釣れる）漁場づくり施策 7）コクチバス駆除

(2) 国・他県の状況

特定外来生物等による被害の防止措置に対する支援（水産庁基本方針）
栃木、群馬、長野、滋賀県においてコクチバスの買い取り補助を実施。

(3) 後年度の財政負担

岐阜県コクチバス駆除総合対策に基づき、電気ショッカーボート等を利用した岐阜県内におけるコクチバスの完全駆除を実施することが求められる。

(4) 事業主体及びその妥当性

外来生物法第2条の3、第17条の2により、都道府県は、被害発生状況等の実情に応じて被害の防止のために必要な措置を講じ、被害が生じるおそれがある場合において、特定外来生物の防除を行う必要があると認めるときは防除を行う。

事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

電気ショックボート等の運用による駆除及び環境DNAを用いたコクチバスの生息状況モニタリングを継続的に実施し、コクチバスの完全駆除及び低密度管理を行う。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R5)	R6年度 目標	R7年度 目標	R9年度 目標	達成率
①木曾三川における環境DNA調査地点数（毎年）	0	240	240	240	-
②電気ショックボートにおける駆除回数（毎年）	0	400	400	400	-

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和6年度	
令和7年度	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %
令和8年度	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>	
(評価)	
<p>・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</p>	
(評価)	
<p>・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p>	
(評価)	

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項 漁協、遊漁者そして県が一体となって、コクチバスの生息状況を注視する必要がある、情報共有を速やかに行えるような体制を整える。</p>
--

(次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 水産関係団体及び一般県民の関心の高い事業であることから、継続的に駆除及び環境DNAによる定点モニタリングを実施する必要がある。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課</p>	
<p>組み合わせる理由や期待する効果 など</p>	

【〇〇課】